

事業の基礎情報

実施主体	阿寒バス株式会社
事業実施地域	釧路市・弟子屈町・網走市・斜里町・羅臼町・別海町・中標津町
共創の類型	交通事業者間共創
他分野共創の類型	観光・まちづくり
共創パートナー	阿寒バス株式会社・網走バス株式会社・斜里バス株式会社・N E Cソリューションイノベータ・ひがし北海道自然美への道DMO・（一社）釧路観光コンベンション協会（DMO）・北海道エアポート株式会社
運行形態	路線バス
運行主体	阿寒バス株式会社

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

当該地域は人口減少と過疎化等により、地域生活交通路線の利用者が減少しています。また、観光利用をしようとした場合、途中で路線が途切れてしまう・時刻や事業者間で路線が繋がっていない等、3つの国立公園を有するエリアとして、観光2次交通の問題を各方面から指摘を受けている地域です。コロナによる利用者減少の回復の遅れや、一昨年の知床観光船事故の影響も受けている地域であり、地域生活交通路線の維持・活性化の為に、大動脈となる観光路線を引くことで観光利用と生活利用双方の利用増を目指すものです。

（事業の概要）

生活交通路線と観光路線を物理的な接続により、Web予約・販売・決済システムを構築することで、地域のバス事業者3社の運行路線をデジタルで接続させます。これにより、キャッシュレス決済端末を設置していない生活交通路線においても事前予約・決済によりスムーズに利用が可能になり、生活交通路線と観光路線の一体的な利用増につながるかを検証します。また、路線バス・定期観光バスを広く組み合わせた着地ダイナミックパッケージ・多元的なサブスクのデジタル販売を行うことで収益性向上による持続可能な運行体系を構築します。

「釧路知床号」、「知床釧路号」の運行により、公共交通機関が乏しかった阿寒摩周国立公園と網走・知床相互の移動が可能となるため、観光に偏っていた地域の路線バスへ、地域住民の利用を促すことも可能となります。ひがし北海道をバスで周遊することが実現できれば、デジタル化により最小限の多言語対応で国内外の旅行者が増加することが見込まれ、一昨年の知床遊覧船の事故により、入込が大きく落ち込んだままの知床エリアへの誘客にも寄与できるものと考えております。「釧路知床号」1,500名・「知床釧路号」1,500名、路線バス2,000名の利用者を見込みます。

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
申請 阿寒バス	■										
交付決定		■	■								
釧路知床号 運行 阿寒バス				■	■	■	■				■
知床釧路号 運行 阿寒バス				■	■	■	■				■
QRシステム 開発・運営 NECソリューションイノベータ			■	■	■	■	■	■	■	■	■
モデルコース 作成・販売 阿寒バス・網走バス・斜里バス			■	■	■	■	■	■	■	■	■
サブスク販売 ひがし北海道自然美への道DMO			■	■	■	■	■	■	■	■	■
完了実績 報告 阿寒バス											■

(補助事業実施後の予定)

「釧路知床号」「知床釧路号」は主にインバウンド需要により、2024年2月の運行では収益を確保できるまでの実績になっております。

路線バスと組み合わせて周遊するモデルを継続し、地域生活交通路線の活性化に寄与します。

3事業者共に同じ予約プラットフォームを導入しており、いずれのWEBサイトからも、ひがし北海道全体の情報に内容の統一性が図られ、一元的に見えることを実現し、同時に予約・決済ができることでユーザビリティの向上による集客力のUPと地域生活交通路線の利便性向上をめざします。

体験型アクティビティコンテンツの造成にも力を入れており、路線バスを使って目的地まで移動し、アクティビティ体験等をして、また路線バスで戻る。これをひがし北海道で2次交通網を主体に広く実施し、路線バスの利用活性化を継続します。

地域の魅力をDMOと連携して発信することで、単に周遊するだけではない滞在の仕方も継続し提案してまいります。

NECソリューションイノベータのシステムは事業者間連携とQR読取の仕組みを持って完成形になり、長期的には大きなコストが発生しない見込みです。